

## 第1回野沢地区のまちづくりの構想策定に係る有識者会議 次第

日時：9月3日（火）

午後 3：00～

場所：市役所8階 大会議室

1 開 会

2 委 嘱

3 あいさつ

4 自己紹介

5 有識者会議について

6 座長選出について

7 議事

(1) 野沢地区におけるまちづくりの構想の策定方針について（説明）

(2) 「野沢まちづくりミーティング」の検討結果まとめについて（報告）

(3) 意見交換

8 その他

9 閉 会

## 佐久市野沢まちづくり構想策定に係る有識者会議 名簿

	団体	氏名
1	野沢地区 区長会長	小林 直人
2	野沢地区(12区)会長	荻原 泰昭
3	佐久市PTA連合会 会長	森角 和士
4	のざわ商店街振興組合 副理事長	伊藤 康弘
5	佐久市観光協会 副会長	臼田 行孝
6	野沢小学校 校長	小林 勉
7	野沢北高等学校 校長	北澤 潔
8	佐久大学 学長	堀内 ふき
9	佐久地域振興局 局長	吉沢 久
10	佐久市金融団 代表	下平 匡克

## 野沢地区のまちづくりの構想策定に係る有識者会議設置要領

### (設置)

第1条 野沢地区のまちづくりの構想（以下「まちづくり構想」という。）の策定に当たり、地域の関係者等の意見を幅広く反映させるため、野沢地区のまちづくりの構想策定に係る有識者会議（以下「会議」という。）を置く。

### (任務)

第2条 会議は、まちづくり構想策定に関し、意見を述べるものとする。

### (組織)

第3条 会議は、委員10人以内で組織する。

2 委員は、地域の関係者等のうちから市長が委嘱する。

### (任期)

第4条 委員の任期は、委嘱のときから、第2条に定める任務の終了のときまでとする。

### (座長)

第5条 会議を円滑に運営するために、会議に座長を置き、委員の互選により選出する。

2 座長に事故があるとき又は座長が欠けたときは、座長があらかじめ指定する委員がその職務を行う。

### (その他)

第6条 この要領に定めるもののほか、会議の運営に関し必要な事項は、別に定める。

### 附 則

この要領は、令和元年9月3日から施行する。

月	時期	内容
7	27日	第1回まちづくりミーティング Aグループ<学生>
7	29日	第1回まちづくりミーティング Bグループ<子育て世代>
7	31日	第1回まちづくりミーティング Cグループ<中高年世代>
8	24日	第2回まちづくりミーティング Aグループ<学生>
8	26日	第2回まちづくりミーティング Bグループ<子育て世代>
8	29日	第2回まちづくりミーティング Cグループ<中高年世代>
9	3日	第1回有識者会議
9	中旬	第2回有識者会議
10	下旬	第3回有識者会議
11	上旬	パブリックコメント募集
11	下旬	策定

## 野沢地区におけるまちづくりの構想の策定方針

### 1 現状・課題と対応策

#### (1) 人口減少

- [現状]**
- 全国的な少子高齢化とともに、地方圏にとっては東京圏への人口一極集中も相まって、人口減少が進行
  - これに対応するため、国を挙げて地方創生の取組が進められ、本市でも、本市の特徴を磨き上げることによって、「若い人の希望をかなえ、選ばれるまち」を目指した取組を推進

- [課題]**
- 自然環境、健康長寿、災害の少なさなど、本市の特徴・魅力を「暮らしやすさ」と位置づける中、地方創生の取組の中でさらにワンステップ上げ、訴求力を高める施策が必要
  - 人口動態は社会増となっているが、若い世代の就学・就労時の流出は顕著であり、地域の活力の創出や担い手の確保のためにも、若い世代が本市に来たい、戻りたいと思える対策が必要

- [対応策]**
- 若い世代の人口異動の契機となる、結婚、出産、子どもの入園・入学等、ライフステージの変化の節目に訴求すべく、本市の特徴である「暮らしやすまち」としての機能を高める施策を展開

#### (2) まちの構造

- [現状]**
- 本市では、「佐久市立地適正化計画」により、旧町村時からの歴史的成り立ちによるそれぞれの地域の中心地を核とし、地域ごとの特徴を生かした「機能集約・ネットワーク型まちづくり」を推進
  - 4つの中心拠点においてゆるやかに人口を誘導するとともに、佐久地域全体の人口のダム機能の役割も担う位置付け

- [課題]**
- 地域の特徴を生かしながら、それぞれの地域の中心拠点の質を高めるとともに、中心地に居住するメリットを最大限享受できる施策展開が必要

- [対応策]**
- 中心拠点ごとの特徴を踏まえた、まちづくりのコンセプトを明確化するとともに、これを多くの主体が共有して、まちの高質化に繋がる施策を適期に展開

### (3) 既存ストックの活用

〔現状〕 ○ 中心拠点には、これまでのまちの変遷に伴い、それぞれ一定の都市機能が集積されており、中心拠点同士が人口を分担できる都市構造

〔課題〕 ○ 特定の拠点に過度に人口が集中すると、当該地における都市インフラが不足し、新たな投資が必要となることから、既存の資源を有効活用する意味においては、適切な規模への人口誘導が必要

〔対応策〕 ○ それぞれの地域の特徴を生かせるターゲット層を誘引し、中心拠点間で一定の人口を分担することで、既存ストックのフル活用を図る施策を展開

## 2 対応策の実現を図るエリアの設定

課題のある項目ごとに、地域の現状や各種計画との整合を踏まえて次のとおり分析・検討し、対応策の実現を図るエリアとして『野沢地区』を選定する。

### (1) 人口減少

#### 【野沢地区の「暮らすまち」としての素地の高さに着目】

- 野沢地区は、国や長野県の機関を始めとする官公庁や商業・金融などの生活サービス機能の集積が見られるほか、高等学校や小・中学校の教育施設、保育所・幼稚園の子育て施設、学習や交流ができる施設などが高密度で立地しており、「暮らすまち」としての魅力が高い
- この魅力を高め、足りないピースを埋めることで、若い世代が選択するまちづくりを進めることは、地方創生への貢献となる

### (2) まちの構造

#### 【野沢地区の“今”を踏まえ、地域の特徴を生かした高質化を実現】

- 野沢地区では、野沢会館（生涯学習センター）の改築の検討が進む中、改めて地域内における公共施設の再配置が予定されるなど、明確なコンセプトに基づいたまちのあり方を再検討する機会が到来している
- 浅間地区や臼田地区では、それぞれの地域の特徴（広域交流・商業集積、福祉・医療等）を生かすコンセプトを持ったまちづくりが進められており、野沢地区においてもその特徴（「暮らすまち」としての魅力）を生かし、高めるまちづくりを進めることは、立地の適正化とともに、佐久地域全体の人口のダム機能を高めることに繋がる

### (3) 既存ストックの活用

#### 【野沢地区が一定の人口のプール機能を果たす】

- 浅間地区の人口増加傾向が見られ、このままいくと教育施設・子育て施設など公共施設の不足といった課題が大きくなることが見込まれる
- それぞれの中心拠点においてまちづくりを進める中、野沢地区では「暮らすまち」としての機能の強化により一定の人口誘導を図ることで、既存ストックの有効活用に繋げる

### 3 野沢地区のまちづくりの構想の策定方針

- ① 野沢地区の特徴である「暮らすまち」としての魅力の高さを最大限に生かし、さらにワンステップ上げることを目指す。
- ② 20代、30代の子育て世代が必要とする施設が充実している地区であることから、多くの方が、結婚、出産、子どもの入学等、ライフステージの変化の節目において新たな暮らしを始めることができるまちを目指す。
- ③ 多くの方がこのまちで暮らし続けたいと実感できるまちを目指す。
- ④ 佐久市立地適正化計画において、野沢地区とともに一つの中心拠点を構成する中込地区の持つ機能を勘案し、これと役割分担・相互補完するまちを目指す。

### 4 構想の位置付け

- ① 第二次佐久市総合計画、第二次国土利用計画（佐久市計画）、佐久市都市計画マスタープラン、佐久市立地適正化計画、佐久市地域公共交通網形成計画などのまちづくりと関係する計画との整合を図る。
- ② 令和元年度内に策定予定の第2期佐久市まち・ひと・しごと創生総合戦略との整合を図る。

### 5 構想策定に向けて

構想の策定期間	令和元年中の策定、公表を目指す
市民意見等の反映	・有識者会議の開催（計3回程度、地域住民の代表を含めて組織） ・ワークショップや意見交換会の開催（地域住民等の参画） ・庁内ワーキンググループによる検討（庁内横断的な課題共有）

## 「野沢まちづくりミーティング」の検討結果まとめ

### 目的

野沢地区に必要な機能について、地域の各世代の生の声を聴取し、まちづくり構想に反映するとともに、地域のあり方をともに考える機会とするために実施

### 検討手法

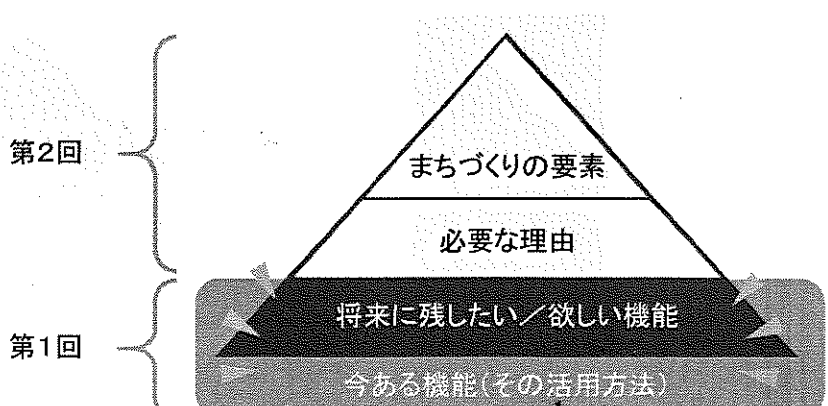
- 各世代の意見を聞くため、3つのテーマごとにワークショップ形式で意見を出し合い、深める

グループ	A	B	C
テーマ	若者が集うまち	子育てしやすいまち	暮らし続けたいまち
対象世代	高校生	子育て世代	中高年世代

- 野沢地区に「今ある機能」を踏まえ、「将来に残したい／または新たに欲しい機能」を整理し、その理由を「まちづくりの要素」としてまとめる

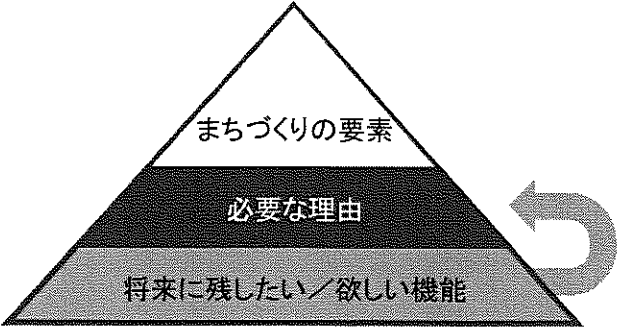
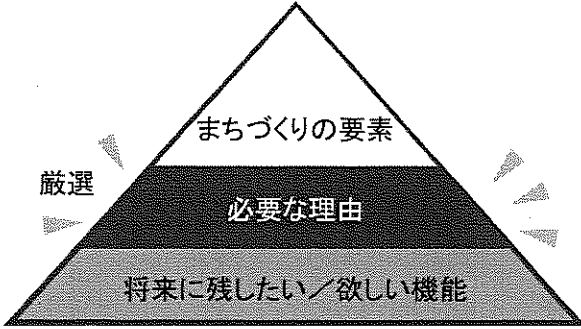
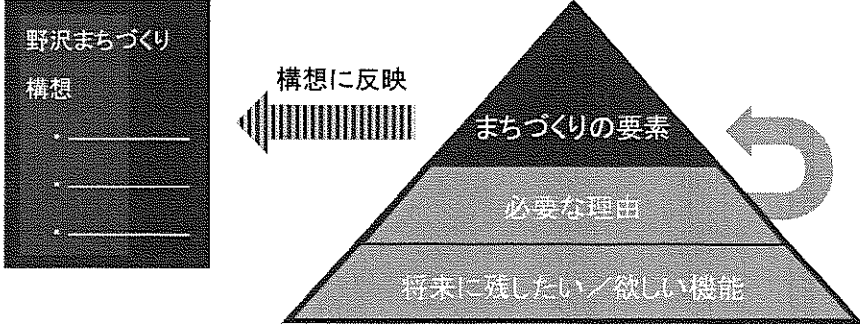
### 検討経過

<第1回>

実施日	Aグループ： 7月27日（土） 13時～ Bグループ： 7月29日（月） 19時～ Cグループ： 7月31日（水） 17時～
参加人数	Aグループ： 10人 Bグループ： 20人 Cグループ： 6人
検討方法	<ul style="list-style-type: none"> <li>野沢地区に「今ある機能」の洗出し</li> <li>検討テーマを踏まえ、今ある機能のうち「将来に残したい機能」または「将来新たに欲しい機能」を洗出し</li> <li>その活用方法を洗出し</li> </ul> 



<第2回>

実施日	Aグループ： 8月24日（土） 13時～ Bグループ： 8月26日（月） 19時～ Cグループ： 8月29日（木） 17時30分～
参加人数	Aグループ： 11人 Bグループ： 15人 Cグループ： 7人
検討内容	<ul style="list-style-type: none"> <li>第1回で整理した「将来に残したい機能／新たに欲しい機能」について、ジャンルごと（例：商業施設、飲食店など）に、「なぜ野沢地区に必要なのか、その理由」を整理</li> </ul>  <ul style="list-style-type: none"> <li>ジャンルごとに整理した「必要な理由」について意見を出し合い、ジャンルを超えて同趣旨となるものを整理統合</li> </ul>  <ul style="list-style-type: none"> <li>必要な理由を整理したものを「まちづくりの要素」と設定</li> </ul> 

## まちづくりの要素

各グループで整理された「まちづくりの要素」は次のとおり

### Aグループ【若者が集うまち】



#### ● 将来に残したい機能／新たに欲しい機能

飲食店	食堂、軽食店、喫茶店、ファーストフード店 など
小売店	スーパーマーケット、コンビニ など
商業施設	本屋、文具店、洋服店、玩具店、スポーツ用品店、大型商業施設 など
娯楽施設	映画館、カラオケ店、複合エンターテインメント施設 など
公共施設	学習施設、図書館、生涯学習施設、公民館 など
公園	公園
公共交通	電車、駅、バス など
イベント	祭り、イベント など
その他	川、風景、観光施設 など



#### ● それが必要な理由

- ・お金をかけずに、または安価で利用できる機能や場所が必要
- ・食料や文具などが手軽に購入できる場所が必要
- ・友達と話し、遊ぶ、集まれる場所が必要
- ・他地区まで行かなくても必要なものが手に入る場所が必要
- ・生活のアクセントとなるような、気分転換できる場所や機能が必要
- ・空き時間に時間を潰せる場所や機能が必要
- ・小さな子どもや高齢者などと触れ合う場所が必要
- ・他地区から人が訪れて、交流が図れる場所や機能が必要



#### ● 「若者が集うまち」に必要な要素

- ・友達や多世代との時間が共有できるまち
- ・毎日の生活の利便性があるまち
- ・気分転換やリラックスができるまち
- ・地域外との交流により活力を伝え、また呼び込めるまち

## Bグループ【子育てしやすいまち】



### ●将来に残したい機能／新たに欲しい機能

飲食店	食堂、軽食店、喫茶店、ファーストフード店、居酒屋 など
小売店	スーパーマーケット、コンビニ、ドラッグストア など
商業施設	本屋、文具店、洋服店、玩具店、スポーツ用品店、大型商業施設、理美容院、宿泊施設 など
娯楽施設	映画館、カラオケ店、複合エンターテインメント施設 など
公共施設	児童館、学習施設、図書館、生涯学習施設、公民館、道の駅、体育施設 など
公園	公園
公共交通	電車、駅、バス、デマンドタクシー など
医療施設	クリニック、総合病院 など
教育施設	小学校、中学校、高校、保育園、幼稚園、学習塾 など
イベント	祭り、イベント など
その他	歩道、ガードレール、駐車場 など



### ●それが必要な理由

- ・子どもが学び、遊べ、自分を高め、交流し、社会全体で子どもを見守れる場所が必要
- ・家族や友人との楽しい時間を長く過ごせる場所が必要
- ・生活に必要なものが、便利に、他地区まで行かなくても手に入る場所が必要
- ・家事や子育ての息抜きができる場所や機能が必要
- ・毎日の暮らしの安心、安全が確保されるための機能が必要
- ・地域の魅力が発信され、地域に愛着や誇りを持つとともに、地域の魅力により地域に活力が呼び込める機能が必要



### ●「子育てがしやすいまち」に必要な要素

- ・子どもたちが健全に育つまち
- ・友達や家族との時間が共有できるまち
- ・毎日の生活の利便性があるまち
- ・気分転換やリラックスができるまち
- ・地域外との交流により活力を呼び込めるまち



● 将来に残したい機能／新たに欲しい機能

飲食店	食堂、軽食店、居酒屋 など
小売店	スーパーマーケット など
商業施設	ホームセンター など
娯楽施設	カラオケ店、囲碁・将棋・麻雀店 など
公共施設	公会場、生涯学習施設、公民館、図書館、体育施設、グラウンド など
公園	公園
教育施設	小学校、中学校 など
観光施設	名所、伝統的産業 など
その他	駐車場、自転車用車道 など



● それが必要な理由

- ・同世代、多世代で交流し、相互のコミュニケーションが図れる場所が必要
- ・生きがいづくりが図れる場所や機能が必要
- ・生活に必要なものが、便利に、他地区まで行かずに、一箇所で手に入る場所が必要
- ・地域の魅力が発信され、地域に愛着や誇りを持てる機能や、まちのシンボルとなる場所が必要
- ・まちがコンパクトにまとまり、徒歩や自転車などによるアクセスが容易となる必要がある



● 「暮らし続けたいまち」に必要な要素

- ・多世代交流や生きがいづくりが図れるまち
- ・毎日の生活の利便性があるまち
- ・生活に必要な機能がコンパクトにまとまったまち



# 野沢地区の現況

参考資料1

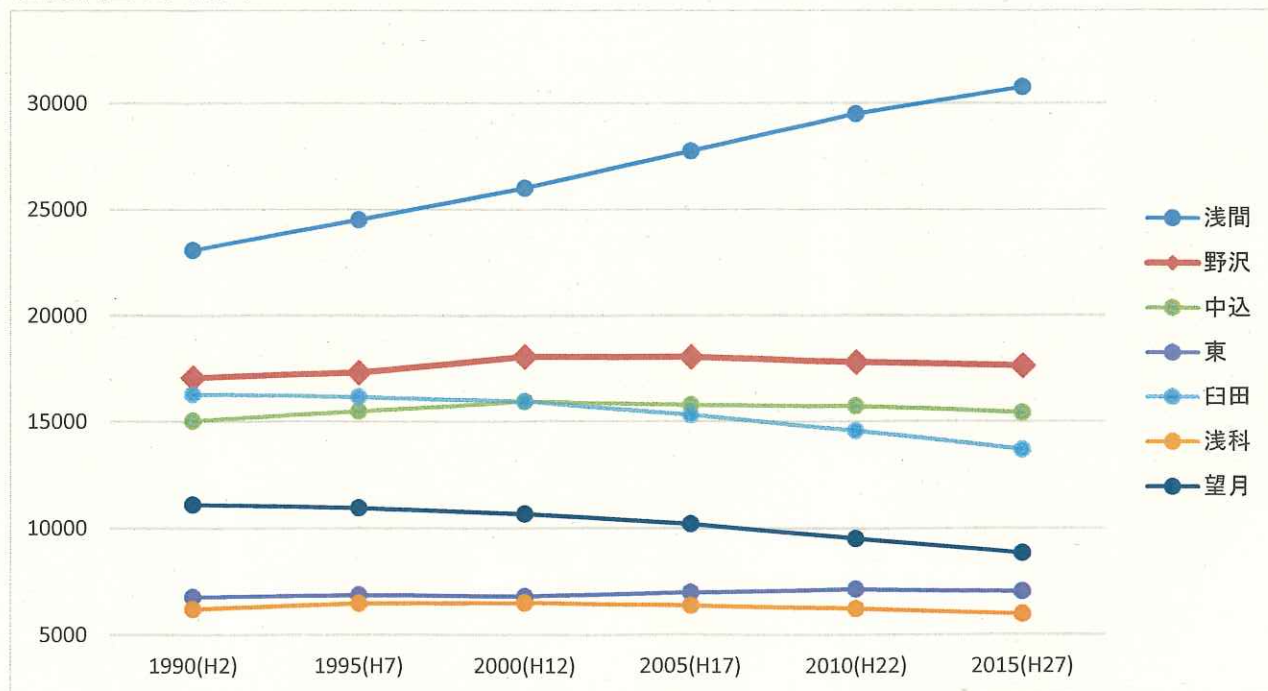
(1) 人口の推移

(単位：人)

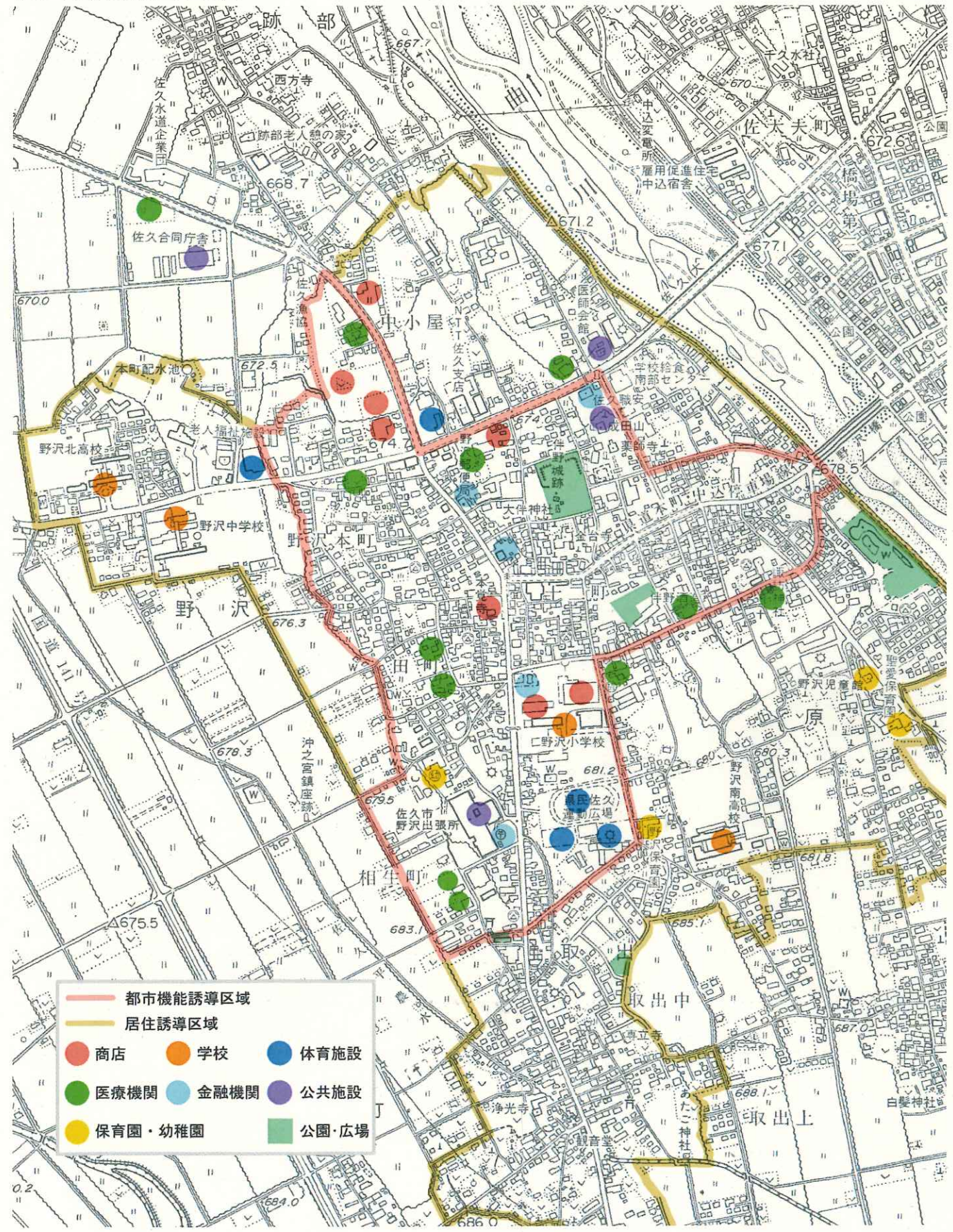
	H27	H28	H29	H30	H31
野沢 人口	18,131	18,006	17,921	17,890	17,757
対前年比	-	99.31%	99.53%	99.83%	99.26%
0~14歳	2,634	2,537	2,491	2,439	2,375
対前年比	-	96.32%	98.19%	97.91%	97.38%
15~64歳	10,411	10,235	10,094	10,015	9,877
対前年比	-	98.31%	98.62%	99.22%	98.62%
65歳~	5,086	5,234	5,336	5,436	5,505
対前年比	-	102.91%	101.95%	101.87%	101.27%
佐久市 人口	99,650	99,616	99,429	99,096	98,867
対前年比	-	99.97%	99.81%	99.67%	99.77%
0~14歳	13,294	13,131	12,989	12,857	12,661
対前年比	-	98.77%	98.92%	98.98%	98.48%
15~64歳	58,397	57,858	57,374	56,797	56,443
対前年比	-	99.08%	99.16%	98.99%	99.38%
65歳~	27,959	28,627	29,066	29,442	29,763
対前年比	-	102.39%	101.53%	101.29%	101.09%
野沢 世帯	7,062	7,105	7,125	7,180	7,223
対前年比	-	100.61%	100.28%	100.77%	100.60%
佐久市 世帯	40,082	40,649	40,985	41,227	41,611
対前年比	-	101.41%	100.83%	100.59%	100.93%

(住民基本台帳 4月1日現在)

国勢調査地区別人口



(2) 主な機能配置の現況





## 意見交換にあたって

- ・ 第1回有識者会議における意見交換は、構想の骨格づくりに向けて、様々な意見をお聞きする一環として実施するもの
- ・ 「野沢地区におけるまちづくりの構想の策定方針（資料3）」、「野沢まちづくりミーティングの検討結果まとめ（資料4）」や、「野沢地区の現況（参考資料1）」などを踏まえながら、それぞれの立場からの意見、感想、要望等について自由な発言を想定
- ・ 意見交換にあたってのテーマは次のとおり

### ○「野沢地区におけるまちづくりの構想の策定方針」について

- ・ 同意できる点
- ・ 違った視点からの意見
- ・ これに加えて、構想策定段階で検討していくべき考え方 など

### ○「野沢まちづくりミーティングの検討結果まとめ」について

- ・ 同意できる点
- ・ 一住民として追加したい機能、理由、要素
- ・ 必要とされた機能や要素について、官と民との役割分担 など

### ○まちづくり全般について

- ・ 専門分野から見たときのあるべき方向性の提案
- ・ 国、県、他市町村、民間事業者の動向 など

### ○その他全体を通じて

第2回有識者会議では、市の考え方、まちづくりミーティング、有識者会議で出された意見の内容を踏まえ、事務局で構想の骨格及びさらに意見を深めたい論点を整理し、構想としてまとめていく「要素部分」を構築していくための議論を行う予定